



▲「イメージを膨らませながら
作ることが大切」と升井さん

出演者から必要とされる 楽しめるものを作りたい

大道具・小道具製作 ますい とくお 升井 督夫さん (黒坂)

また、刀や剣などはた
くさん作りましたね。それ
ぞれ時代が違うので、時
代考証をしながら物語に

「楽しいのが一番」
世界観を忠実に表現
—大道具・小道具製作な
ど裏方としてかかわって
きて、印象に残っているこ
とはありますか。
第2回公演からかかわっ
てきましたが、一番印象に
残っているのは、2007
年の「神々の詩」での鳥居
の製作ですね。大道具は
常に自立・移動できるよ
うに作るのですが、鳥居が
とても大きく、ステージ上
で組み立てたことを覚えて
います。

「楽しいのが一番」
世界観を忠実に表現

あつたものを作らなければ
なりませんし。それに、子
どもと大人どちらが扱っ
かによって大きさも変わっ
てきます。
—道具制作で気を付けて
いることは。
とにかく、子どもたち
など出演者がけがをしな
いように作ることが一番で
すね。次に、物語の世界
観を表せること。まずは、
脚本を見て自分で必要な
道具を考えてから、渡邊
さんとイメージをすり合
わせて作っていきます。
—ここまで続けられた理
由は何ですか。
やはり「楽しいから」の
一言ですね。趣味が高じて
もうすぐ15年になります
が、これまで本番の舞台を
客席から観たことがないん
です。でも、自分が作った
道具で無事に本番を終え
るとほっとしますし、うれ
しくなります。
出演者の長尾光貴さん
も小道具製作を手伝って
くれています。私一人では
つまでできるかわかりませ
ん。でも、子どもたちなど
出演者と共に元気な限り、
楽しく続けていきたいです。

日野の子どもたちが輝く姿に魅せられて

「町民ミュージカルを応援する100人の会」

たがい けいこ 田貝 桂子さん (根雨)

子どもたちの
成長する姿に感動

町民ミュージカル15周
年おめでとうございま
す。私が町民ミュージカ
ルと出会ったのは、国民
文化祭の一環で第1回が
上演された平成14年で
す。地元の小中学生たちが
出演すること、学
芸会のようなものかと考
えていましたが、演技が
始まりとても驚きまし
た。「これがあの日野の
子どもたち？」と、しっ
かりした踊りや歌、演技
に、感動で涙があふれた
のを覚えています。きっ
と、学校ではできない体
験をし、この日を迎えた
のだと感じました。あれ
から数えて、15回目。ど
うしても都合がつかない
時を除き、欠かさず観に
行っています。

共に支えあい作り上げる
舞台、今年も楽しみに

第1回の出演時に小学
4・5年生だった子ども
たちが、中学生、高校生
になっても、忙しい中、
毎年出演してくれまし

た。その魅力はきつと、
何もなくてころからみん
なで苦勞を分かち合い、
舞台を作り上げ、お客さ
んと感動を共にする、そ
の達成感だと思えます。
近年は、小学校低学年の
子どもたちの出演もあ
り、そのかわいらしい、
かっこいい演技に会場が
一層盛り上がります。
また、幕が上がると、
出演者一人一人の表情や
衣装、小道具や大道具、
背景の絵にも視線が移り
ます。それらを製作した
人たちの顔が浮かび、裏
方としての協力の大きさ
を感じます。
熱い中、図書館の車庫
で大道具・小道具を作っ
てくださる升井さんや洋
画グループの皆さんなど、
人の目には触れないとこ
ろで、毎回多くの裏方さ
んの支えがあつて、15回
目の公演を迎えることが
できるのだと思います。
私は、裏方にはなれま
せんが、これからも観客
の一人として、応援し続
けます。そして、今年も
あの感動のフィナーレを
味わいに行きます。

※今回の公演について、詳しくは21ページをご覧ください。

感謝胸に白球追いかけて、全力で挑んだ夏

全国高校野球鳥取大会

第98回全国高校野球鳥取大会が、7月17日から27日まで、米子市のどらやきドラマチックパーク米子市民球場で開かれました。

日野高等学校野球部は、大会2日目の1回戦に出場。倉吉総合産業高等学校と対戦するも、接戦の末、惜しくも勝利を逃しました。

日野高ナインが見せた全力プレーに、スタンドから多くの声援と拍手が送られていました。



▲ランナーを背負いながらも、チーム一丸となって力投をみせる

「応援が力になった」
地域に感謝、後輩へ思い託す

1点を追いかける9回裏、3年生の山本大瑚さん（伯耆町）、石飛樹さん（日南町）、池口隼矢さん（米子市）がバッターボックスに。最後の打者、池口さんが打ち取られると、野球ができる喜びと感謝の思いを胸に、全力で挑んだ彼らの夏が終わりを告げました。

山本さんらが1年生の時、野球部員が彼ら3人だけになり、部の存続すら危ぶまれましたが、再び試合ができる日を思いながら、くじけずに部を守り続けてきました。その思いが実り、昨夏、全国高校野球鳥取大会では、10年ぶりのベスト8入り。今年の春には、新たに仲間を加え、今大会を迎えました。

試合は、山本さんと倉吉総合産業高校の投手との白熱した投手戦になりました。4回表には1点を先制されるも、その裏、山本さんの3点本塁打で一挙に逆

転。5回表に1点を返されるものの、粘り強い守備で1点リードのまま終盤を迎えます。しかし、8回、9回に1点ずつ奪われ、惜しくも1回戦敗退となりました。

試合後、野口真吾監督は、「3年生はこの夏、2年分の野球をした。これまで野球部を支えてくれたことに感謝したい」と、3年生をたたえました。山本さんも「地域の皆さんも応援に来てくれ、とても力になった」と感謝し、「敗れはしたが、チームは成長したと思う。これからも頑張つてほしい」と後輩へ思いを託しました。

7月19日には、役場を訪れ、防災無線を通して、地域の温かい応援に感謝の気持ちを伝えました。仲間や家族、地域の人の支えに感謝しながら、日野高野球部にとって記憶に残る夏となりました。

《試合結果》

▽1回戦

倉吉総合産業 4-3 日野



▲家族・仲間へ感謝の気持ちを伝える



▲粘り強い守備で味方を鼓舞



▲スタンドから熱い声援を送る応援団